

♪ 2019年度 **poco a poco** ♪

Nr. 25 2020年2月26日(水) 文責:プファイル・辰巳

ファッシングも終わり・・・

ファッシング(カーニバル)の一連の行事は昨日で終わり、今日はドイツの暦上は「灰の水曜日」。賑やかなお祭りは、復活祭までお預けですね。

日本人学校では、いよいよ卒業式・修了式まで約3週間となりました。3学期のまとめ、そして学年のまとめをしっかりと終えて、来年度へとつなげたいものですね。

体調を崩している人も多いようです。まずは元気に最終日を迎えられるように、体調を整えましょうね! そして、送る会や卒業式で、すてきな歌声を響かせてください。



明日はミニコンサート!

昨日、ミニコンサートのプログラムを配布いたしました。出演順などチェックしていただけたでしょうか。ご覧の通り、今回も出演者多数となっています。3分の制限時間を守っていただいたとしても、すべてのプログラムを消化するには2時間以上かかる計算です。2学期同様、出入りなど速やかに済ませて、プログラムが滞りなく進行できるよう、ご協力をお願いします。また、終了時刻が遅くなることも、ご了承ください。日が伸びたとはいえ、帰り道が暗くなるかも知れませんので、お迎えをお願いします。

会場には大勢の人が集まります。風邪等予防のため、マスクの着用をお勧めします。

出演する人も鑑賞する人も、みんなで協力して、楽しいひと時を分け合いましょう。よろしくをお願いします。

<音楽こぼれ話 相次ぐ大演奏家の死去

追悼 ～世界的オペラ歌手 M. フレーニ～ >

ミレッラ・フレーニは、イタリアのオペラ歌手(ソプラノ)で、1935年、モデナという町に生まれました。同じ町で生まれた大オペラ歌手にルチアーノ・パバロッチイがいました。二人は偶然にも同じ年の幼なじみであり、同じ乳母の手で育てられたそうです。不思議なご縁ですね。

フレーニは子ども時代から、音楽的才能にあふれ、10歳の時、ラジオ局主催のコンクールでプッチーニのオペラ「蝶々夫人」の aria を歌って、優勝した経験があります。天才少女だったのですね。

結婚、子育ても経験したフレーニが、本格的に演奏活動をするようになるのは、1958年トリノの音楽コンクールで優勝して以来です。「ラ ボエーム」のミミ、「フィガロの結婚」のスザンナ、「ドン ジョヴァンニ」のツェルリーナ・・・と、どんどん当たり役を演じました。

1963年には、カラヤンの指揮による「ラ ボエーム」で、ミラノのスカラ座デビューを果たし、カラヤンに気に入られたフレーニの活躍の場は、世界的に広がりました。ミラノ、パリ、ニューヨークなど各地のオペラ座で活躍し、オペラのレパートリーも増えました。

2005年に現役を引退した後は、モデナの自宅で後進の指導に当たっていました。そのフレーニさんが、2020年2月8日、84歳でモデナの自宅にて死去されたということです。ご冥福をお祈りします。



ちょっとだけ 演奏会情報

～4月のアルテオーパー・演目より～

4月4日(土) 大ホールにて

19時から ドイツ室内・ヴィルトオーゾ・ベルリンの演奏
バッハ 「マタイ受難曲」

4月5日(日) 大ホールにて

20時から アンネ・ゾフィ・ムッター、ダニエル・ミュラー・ショットほかの演奏
ベートーヴェン 「弦楽3重奏曲」第1番 ほか